

西田 啓太 監督 特集

MKE
映画祭
Annex04

2016年2月27日[土]13:00~

ハートフルスクエアG 研修室50

主催/MKE映画祭実行委員会 後援/岐阜県・岐阜市

真面目で熱くて



やつら オカシイ映画



Keita Nishida's Works

真剣で オカシイ

カンヌを始めイタリア、ケニア、ゆうばり等、国内外の映画祭で上映されている西田啓太監督の特集です。熱い「おバカ」が言葉を超える。そこに加えたシリアスやダークやエロス。そして「仲間」との厚い絆。西田監督も来場予定。20年に及ぶ映画と仲間達のエピソードを聞いちゃいましょう。あなたも、映画が作りたくなっちゃうかも。



駒奴【コマンド】 1996, 12min.
将棋バカによるバカ将棋の死闘の決着は？
京大シネ研仲間とCM制作スタッフで製作。
◆第3回インディーズ・ムービー・フェスティバル
短編部門グランプリ。



ダーク兄弟 2002, 54min.
人々が意志を無くし、街が恐怖に侵食されていく..
で・も、俺ら二人ならちょっと強いぜ。
おバカとシリアスの絶妙なバランスが堪らない。
◆シネトライブ 2003 観客選考部門グランプリ



ママゲリア 2004, 11min.
鳴り止まぬ帰宅のチャイム。放課後の校舎で子供達が見たものは... 豊中市子どもアート&クラフトまつりの依頼で地元の子供と親で撮影。上映時には観客の子供達を怖がらせてしまい、問題になったとか(笑)



半熟部屋 2008, 30min.
“ハーフボイルド”な男二人がおかしな展開に...
主演の柴原虎之介がかつて監督した『ハーフボイルド・キャッツ』の続編として制作。東京の柴原宅に泊まり込んで撮影。◆「横浜映像天国 2009」入選

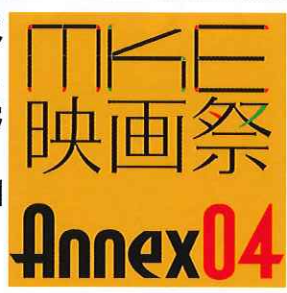


月夜のチョメチヨメ 2013, 8min.
多くのアイドル映画を監督した杉下淳生とグラビアアイドル藤森望の掌編。当時杉下は末期癌に侵されており彼を映像に残したいとの思いをきっかけに制作。
◆カンヌ映画祭 2013 ショートフィルムコーナー入選



ウェアラブル・アンドロイド 2015, 5min.
“携帯電話も、PCも、もう要りません。あなたにはWearable Androidがあるのだから。”『フルジャパン・鉄ドン危機一発』からシングルカット。イタリア、セルビア、ケニア等、数々の国内外映画祭で上映。

西田 啓太 監督特集
2月27日[土] 開場 12:45 開演 13:00 終演予定 16:10
ハートフルスクエア G 研修室 50 [JR 岐阜駅隣接]
主催：MKE 映画祭実行委員会
後援：岐阜県、岐阜市



◇上映協力金 500円 (予約・当日とも、自由席)
◇予約 / 問合せ
MKE 映画祭事務局
メール: info@mke-cf.info
(お名前と枚数を送信してください。確認メールを返信します)
*上映作品などプログラムは都合により変更の場合もあります。info@mke-cf.info
HP: www.mke-cf.info



誰かの為の映画で、別の誰かを喜ばせたい

溢れ出る創作欲に駆られて、ではなく、僕の映画は非常にパーソナルな要請を受けて作られているものが多くなっています。地域の子どもたちのための作品、役者がかつて制作した自主映画の続編を望まれての作品、死にゆく友人を映画の中に残すための作品、など。きっかけは個人的な誰かのために。



でも、それらは“受け身の仕事”ではありません。“個人的な作品”という気もありません。彼らに喜んでもらうためにスタートし、でも彼らを裏切りたいと思ひ、一方で自分のやりたいこと、言いたいことも盛り込み、そして、僕と彼らの関係の外側にいる、会ったことのない別の誰かも喜んでくれるような作品、そんなものを撮ろうとしてきました。

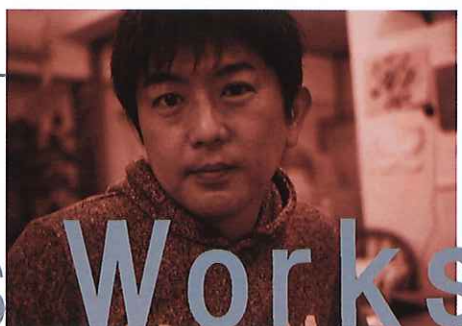
だから僕の作品は、自分でもひねくれていると思います。僕の作品はバカバカしい設定やテイストの作品が多いのですが、単純に笑わせる、或いは泣かせるようなものを、よせばいいのに、そこを避け、躲しながら進みます。

そんなひねくれものの作品の特集をしてくださるとは、なんとありがたいことでしょう。本当に光栄なことです。そうなんです。いくらひねくれている、僕はやっぱり僕の映画を沢山のの人に観てもらいたいですし、少しでも楽しんで、喜んでもらいたいと願っていました。

パーソナルな関係がきっかけとなって作った映画が遠く離れた日本各地の誰か、世界中の誰かと繋がれることは映画づくりの醍醐味です。

そのひとつ、大好きなMKE映画祭を通して、僕の映画を楽しんでもらえたら本当に嬉しいです。

西田 啓太 (にしだ けいた) 1971年大阪生まれ、福岡育ち。京都大学文学部卒。京大シネマ研究会にて映画制作開始。卒業後、会社勤務の傍ら制作した『駒奴』で第3回インディーズ・ムービー・フェスティバル短編部門グランプリを受賞。その後も、カンヌ映画祭出品など多数上映実績がある。現在、広告プランナーをしながら短編を撮り続けている。



Keita Nishida's Works